

(様式4)

令和8(2026)年3月10日

### 令和7年度 第3回 大阪市立北津守小学校 学校協議会 実施報告書

校園名 大阪市立北津守小学校

校園長名 石倉 雅之

日時	令和8年3月9日(月) 18:00~19:00	
場所	北津守小学校 校長室	
出席者	委員など	寺本 愛(委員 PTA役員) 眞榮田 由美子(委員 PTA役員) 杉浦 雅美(委員 北津守保育所長) 稲田 智英(委員 鶴見橋中学校 校長)
	校園	石倉 雅之(校長) 田村 恭彦(教頭) 田村 忠章(人権教育主担) 鴨 佑真(教務主任)
	区役所	秋山 暁子(西成区地域支援担当課長代理)
議題	(1) 令和7(2025)年度「運営に関する計画」(最終評価)について (2) 第2回学校教育アンケート結果について (3) その他	
協議要旨	協議の結果	意見の概要
	(1)	○「運営に関する計画」(最終評価)について ・安全・安心な教育の推進  ・小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合が73.4%であったため目標に達しなかった。しかし、「どちらかといえばあてはまる」の肯定的な回答も入れれば平均は91%となる。児童の中にはいじめを許さないという意識は育まれてきている。心の天気を活用し、児童の心情を各教職員が把握し、教職員間での連絡・相談できる場面や関係性があつたためだと考えられる。 ・小学校学力経年調査における「自分には、

			<p>よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合が70.3%であり目標を達成できた。たて割り班で様々な学年と支え合う活動を行ったり、ポジティブ行動支援を軸とした指導を教室で行ったりすることで自分の良さに気づき自信をもつことにつながったと考えられる。</p>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・未来を切り拓く学力・体力の向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合は22.3%であった。「どちらかといえば当てはまる」の回答も54.1%で、全体の中で肯定的な割合は76%と児童は意欲的に学習に取り組んでいる。研究討議会や教員研修を通して児童の話し合い活動がより活発になるような授業づくりを進めていく必要があると考える。</li> <li>・小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合が72.8%と目標に達することはできなかったが、「どちらかといえば当てはまる」が23.4%と約96%が肯定的な回答をしている。「なわとび週間」「ドッジボール週間」「駆け足週間」「走り幅跳び週間」に取り組むことで運動することの楽しさを実感することにつながったと考えられる。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・学びを支える教育環境の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員がICTを活用（ナビマ、教員のデジタル教科書、動画や写真の表示、情報検索など）するだけではなく、児童は学習者用端末を使い、資料のまとめや掲示、意見の集約などに活用する場面が増えた。また、持ち帰り家庭学習で使用することで習慣化を図ることができた。</li> <li>・ICT担当者だけではなく、各担任と授業担当者がICTアシスタントと連携しながら、児童の学習への興味関心が高まるよう取り組みを進めた。その中で、効果的にICT機器を活用した教材づくりを行ったり、ICT担当が中心となって指導者を対象にした操作方法や授業での活用方法の研修を実施したりするなどスキルアップにつながった。</li> <li>・学校閉庁日の設定、会議の精選や必要な物品や機材の購入など教員が働きやすい環</li> </ul>

		<p>境を整備することで、長時間勤務の解消を図ることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・会議の時短化だけでなく、土曜参観や日曜参観における振替休日取得などにより、負担は軽減されている。</li> <li>・現時点では、教員の1か月の時間外勤務時間の平均は、4月から1月の10か月間で17時間54分であり、目標を達成できた。</li> </ul>
(2)	<p>学校教育アンケート結果について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童アンケート結果について</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「学校に行くのは楽しい」の項目では、肯定的回答の割合が87%と高い割合であった。学習においてお互いを認め合える取り組みや、異学年交流を頻繁に行ったり、地域に根差した企業との体験学習などを行ったりすることで自分の居場所としての意識が育まれたと考える。家庭や学校で、がんばりや努力を認め子どもの話をよく聞き、受け入れる姿勢を示していくことが大切である。また、子どもが活躍できる場面を増やし、行動や成果、目標に向かって努力し成功体験を増やすことも必要である。学校での安心感を子どもたちがもつ、ことにより、次への挑戦の意欲へとつながると考えている。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者アンケート結果について</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「学校は、保護者の意見や願いを積極的に受け止めて、教育委活動を行っている。」の肯定的な回答が96%。「学校は、子どもどうしのトラブルに対し適切な取り組みを行っている」も肯定的な回答が92%。「学校は一人ひとりの子どもに寄り添い、人権を大切にした教育活動を進めている。」の肯定的な回答が99%と高い割合だった。これからも、子どもに寄り添い、子どもの未来を見据えた教育を続けていく。</li> </ul>
(3)	その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外国にルーツのある児童が増え、コミュニケーションを図ることが困難になってきていることがあるため、指導法を工夫している。国際クラブを定期的に行い、外国にルーツのある児童の居場所づくりを続けていく。また、取り組み内容を学校全体で取り組むことで多文化共生をすすめていく。</li> </ul>

協議資料	○令和7年度「運営に関する計画」(最終評価) ○第2回学校教育アンケート結果(児童)について ○第2回学校教育アンケート結果(保護者)について
備考	傍聴者【 0人 】